

CAUA フォーラム開会挨拶

このたびのフォーラムは、昨年 10 月に開催いたしました『情報センターと図書館の融合の行方』パート2として、さらに観点をグローバルに展開、大学機構全容に視点を向けまして、慶応義塾大学 DMC 機構の福原美三教授をお招きし『高等教育オープンコンテンツの潮流、組織融合、コンテンツ融合の発展』と題しご講演を賜ります。

先生は、エンジニアのご出身と伺ってございます。E-Learning の第一人者として、また、ジャパン・オープンコース・ウェア (JOCW) でも、ご活躍でおられます。

JOCW につきましては、後ほど基調講演でご紹介いただきます。

さて、先生との電子的交流の中で、私的な話で恐縮に存じますが、本学刊行の雑誌『栄養と料理』昭和 10 年(創刊号)から昭和 47 年迄のデジタルアーカイブスを、私どもで作成しておりますことから、このデータベースを WEB からご診断をお願いしましたところ、『文化的・歴史的価値ある研究素材』と評して頂きました。また『文字認識とテキストマイニングを使用して、あるいはメタデータ化による、自動翻訳ソフトの組み合わせから、海外発信のできる情報にもなり得るのでは』と、大変有意義な技術的示唆をお与えくださいました。実を申しますと、このアーカイブスはインターネット公開しているものの、日本語を解さない人々にとっては無意味、無用な情報で、私は少なからず肩身の狭い思いでおりましたので、もし英訳版を創ることができましたら、日本の食文化の電子的世界発信などと、想いを馳せたこともございましたが、成せる技(わざ)もなく、手の届かない夢想でありました。しかしながら、先生は『大変面白い研究ができる』と励ましてくださいました。このことこそが、文化的価値と技術的価値の「融合」であり発展の源ではないでしょうか？

もうひとつ、例をお話しすることを赦していただきます。

精神科医でユーモアのお好きな故齋藤茂太先生の著書『一笑一若・一怒一老』というタイトルの書物がございます。タイトルの意味は『ひとつの笑いから、ひとつ若返り、ひとつの怒りから、ひとつ老ける』とのことようです。その著書のなかで、『人類の文明について、こう申されております。山や海を見ると、その向こうにはどんな世界があるだろうかとの好奇心が起り越えてみたくなるのです。それは山のあなたの空遠くに幸が住むと思ったからです。新しい世界を求めて移動し、それに伴って技術や文化も移動し、べつの技術や文化と融合して新しい技術や文化を生み出していったのです。』

このことは今、我々が行動に移そうとして議論を重ねている現実を言い得てはないでしょうか？

本日のプログラムは福原先生の基調講演のあと、パネルディスカッションを行います。

大学の各機関から 4 名の先生方をパネリストにお迎えしました。コーディネーターは武蔵大学・情報メディア教育センター事務長で、本運営委員会・監事役の小野成志先生にお願いしてございます。パネリストの先生には、それぞれのお立場でこの融合問題に取り組みられたご経験と将来についてのご発表を頂きます。フロアの皆さまからも、自由闊達なご意見を交えまして討論を繰り広げて頂きますと、本日のフォーラムが参加者の皆さまに、先を見据えた課題の裏りある一助となりましたら主催者としましては、誠に幸甚でございます。

最後に異なる文化の衝突と融合を探求して 2 年目、新たな世界を生み出すべく行動を起こす勇気を融合がもたらす希望のもとに果たしていきたく存じます。

これからますます発展するであろう IT 技術の世界と歴史的・文化的遺産をもつ図書館との融合、大学が発信する学術的コンテンツの共有化による教育的融合、インターネット環境から学ぶ自由を得る学習者との世界的融合は学術的發展のために、我々の尽せ得るものが数多くあるのではないのでしょうか？

また人類社会の『新たな文明構造』を生み出すことも可能ではないのでしょうか？

希望に向け日々邁進してまいりたいと考えます。

これをもちまして開会の挨拶とさせていただきます。